

平成 31 年度使用高等学校
(第 1 部)
教科書編集趣意書
国語 (古典 A) 編

目次

	ページ
002 東書 古典 A.....	1
015 三省堂 古典 A	3
017 教出 古典文学選 古典 A	5
109 文英堂 説話 (古今著聞集・沙石集・十訓抄・竹取物語) 随筆 (徒然草・枕草子・方丈記・常山紀談・花月草紙・蘭東事始) 故事・小話 漢詩 史話 ※.....	7
109 文英堂 源氏物語・大鏡・評論 ※.....	9
109 文英堂 物語 (竹取物語 伊勢物語 大和物語 落窪物語源氏物語 堤中納言物語) 和歌 (古今和歌集 後撰和歌集 拾遺和歌集) 随想・日記 (枕草子 和泉式部日記 紫式部日記) ※.....	11
109 文英堂 徒然草 説話 (古今著聞集 十訓抄 宇治拾遺物語古事談 今昔物語集) 枕草子 ※.....	13
143 筑摩 古典 A [古文・漢文] 物語・史伝選	15

※平成 28 年度までは、142 右文 (右文書院株式会社) より発行。

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
2 東 書	古A 301	古典A 代表者 三角洋一

■編集の基本方針

- 1 我が国の**伝統と文化への理解**を深めるとともに、**生涯にわたり古典に親しむ態度**を育てる。
- 2 分量的、内容的にまとまりのある教材を取り上げ、**様々な時代や人物の思想や感情**に関心を持たせる。
- 3 教材本文、コラム、附録などを有機的に関連させ、**多様な指導**ができるようにする。

■編集上の留意点および特色

- 1 「古文編」は**ジャンル別**の3単元、「漢文編」は1単元を用意し、様々な形式の文章に触れることを通して、多様なものの見方を身につけられるようにしました。
- 2 我が国の**伝統と文化への理解**を深めるための手がかりとなるよう、各単元扉にその単元での学習目標を示すとともに、各教材には脚問、「学習の手引き」を適宜設けました。
- 3 「古文編」では「**コラム**」(3か所)、「**言語活動**」(3か所)、「漢文編」では「**コラム**」(1か所)、「**参考**」(2か所)をそれぞれ設け、単元や教材で学習した内容を深めたり広げたりできるようにしました。
- 4 「古文編」では「**文法の要点**」(7か所)を設け、古文の読み取りに必要な文法事項を、教材本文と関連させながら効率的、有機的に学習できるようにしました。
- 5 **附録**には、豊富な図版資料に加えて、「文語助動詞活用表」、「文語助詞一覧表」、「陰暦月齢表」、「月の異名と二十四節気」、「十干十二支」、「古時刻・古方位」、「『源氏物語』人物関係図」、「藤原氏系図」、「官職位階」、「日本古典文学史年表」、「中国文学史年表」などを用意し、多様な指導に対応できるようにしました。

■学習指導要領との関連

- 1 教材に加えて、「『大鏡』の対話形式」などの「**コラム**」を適宜設けることで、我が国の伝統的な言語文化への理解が深まるように配慮しました。
- 2 「**言語活動**」のページでは、教材との関連を図りながら、学習ができるようにしました。
- 3 **古典に関連する近代以降の文章**としては、『源氏物語』についての文章「サイデンステッカーと『源氏物語』の自然観」を採録しました。

■教科書の構成・内容一覧

<p>【古文編】</p> <p>1物語</p> <p>伊勢物語 月やあらぬ／狩りの使ひ／小野の雪</p> <p>大和物語 安積山</p> <p>うつほ物語</p> <p>とりかへばや物語 ◆雅楽の楽器</p> <p>松浦宮物語</p> <p>住吉物語 ●文法の要点① 紛らわしい語の識別</p> <p>源氏物語 文学史における『源氏物語』 なにがしの院／野宮の別れ／新春の六条院 ■コラム① 六条院 螢火／唐猫の綱／薫の御五十日 ○言語活動① 干支と行事・習俗 宇治の姫君たち／橘の小島／むなしき御文 サイデンステッカーと『源氏物語』の自然観</p> <p>2歴史</p> <p>大鏡 時平の大臣 ●文法の要点② 紛らわしい語の識別 最後の除目／隆家と道長／東三条院と道長 ●文法の要点③ さまざまな助動詞 鶯宿梅／翁たちの退場</p> <p>栄花物語 伊周・隆家の配流 ●文法の要点④ 敬語</p> <p>今鏡 歌人頼実</p> <p>増鏡 新島守 ■コラム② 『大鏡』の対話形式</p> <p>平家物語 足摺 ●文法の要点⑤ 副助詞／終助詞／副詞 知章最期／横笛</p> <p>太平記 俊基朝臣海道下り ○言語活動② 道行文の朗読</p>	<p>3評論・随筆</p> <p>風姿花伝 秘する花を知ること</p> <p>ささめごと 稽古も歌口も同じほどの人の</p> <p>折たく柴の記 わが父のこと</p> <p>駿台雑話 老僧が接ぎ木 ●文法の要点⑥ 係助詞／接続助詞</p> <p>歌意考 おのれいと若かりける時</p> <p>玉勝間 師の説になづまざること ■コラム③ 真淵と宣長の出会い 松坂の一夜</p> <p>藤篋冊子 落葉 ○言語活動③ 春秋の争い</p> <p>琴後集 初瀬の郭公 ●文法の要点⑦ 和歌の修辞</p> <p>【漢文編】</p> <p>4漢文</p> <p>故事と寓話 孟母断機〔列女伝〕 夢為胡蝶〔莊子〕 従漚鳥游〔列子〕 直躬〔論語〕〔韓非子〕 崔杼弑其君〔春秋左氏伝〕 ■コラム④ 日本文化と漢字・漢文</p> <p>孔子と子路 子路請為弟子〔史記〕 嗟乎、由死矣〔史記〕 ◆参考 弟子 中島 敦 ◆参考 『論語』における子路</p> <p>漢の高祖と韓信・張良 大丈夫当如此也〔史記〕 法三章耳〔史記〕 威加海内兮帰故郷〔史記〕 国士無双〔史記〕 多多益善〔史記〕 孺子、下取履〔史記〕 良薬苦口〔史記〕</p>
--	--

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
15 三省堂	古A 306	古典A 代表著作者 中冽正堯・三浦和尚

編集の基本方針

親しみやすく基本的な文章を取りあげ、現代とは異なる時代に生きた人々の、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方について、理解を深める教科書



編集上の留意点と特色

全体の構成

学習の流れを重視して、全体を古文編と漢文編とに分けました。また原則として古文編は作品ごと、漢文編はジャンルごとの構成として、生徒の発達段階に即した学習指導ができるよう教材の配列に工夫をこらしました。また、言語表現や調べ学習、読み比べなど多様な言語活動に役立つコラムや、教科書を学ぶうえで役立つよう古典に関する知識をまとめた資料編を用意しています。

古文編

説話文学の代表的作品ともいえる『宇治拾遺物語』『今昔物語集』『十訓抄』『古今著聞集』から数編ずつを選び、全21本を配列しました。古典文学がもつ言葉の力を実感することで、伝統的な言語文化に対する愛着心や、それを後世へ受け継ごうとする心を育むという観点から、言語表現の豊かさを学習者の立場から味わうことのできる教材を選んでいきます。また、冒頭に導入の教材「イントロダクション」を置くことで、古文の学習にスムーズに入れるよう工夫しています。

漢文編

漢文学習における主要ジャンルである思想、漢詩、史伝から基本的かつ普遍的な教材13本を厳選して採録しました。また教材の多くについて、学習の手引きを含めて偶数単位のページ数で構成することで、学習の流れが見えやすくなるよう工夫しています。

コラム・資料

古典に親しみを感じるとともに現代とのつながりについても考えながら読み進めていけるよう、教材の内容等に即して、作品が成立した時代や背景などを解説した「古典のとびら」を設けました。調べ学習や読み比べなどの学習活動を通じて、学習者が古典への興味・関心を広げ、積極的に親しむことができるようになっています。また巻末の「資料編」には、「古典参考資料」「古典文法要覧」「本書で学ぶ古文の基本単語」「漢文の読み方」「覚えておきたい故事成語」など、必要性和有用性、見やすさ・理解しやすさ・利用しやすさを第一に、読解・鑑賞・調査などに資する資料をそろえました。

教科書の構成・教材一覧

古文編

イントロダクション	蜂飼いの大臣 恵心僧都の母	古事談 発心集
宇治拾遺物語	百鬼夜行 観音になった男 古文のとびら① 説話のおもしろさ 呪いを知らせた犬 絵仏師の執心 古文のとびら② 芥川龍之介と説話	
	古典に関連した近代の文章を読もう	
	地獄変	芥川龍之介
	夢を買う 袴垂と保昌 後の千金 古文のとびら③ 説話と中国の故事 応天門炎上 歌詠みの徳 古文のとびら④ 絵巻のいろいろ	
今昔物語集	絵師と大工 玄象の琵琶 姨母捨山 古文のとびら⑤ 古典の中の「同じ話」 武士の祭り見物	
十訓抄	笛吹き成方 行成と実方 古文のとびら⑥ 説話の登場人物	
古今著聞集	義家と宗任 女盗賊 相撲の勝負	

漢文編

イントロダクション	塞翁が馬 朝三暮四 杞憂 漢文のとびら① 今に生きる故事成語	淮南子 列子 列子
論語	孔子の人となり 孔子と政治	
老子	大道廢れて、仁義有り 天下水より柔弱なるは莫し	
莊子	渾沌 漢文のとびら② 孔子ってどんな人？	
漢詩	竹里館 峨眉山月歌 臨洞庭 登高 漢文のとびら③ 李白と月	
三国志	三たび往きて、乃ち見る	

資料編

古典参考資料	
古典文法要覧	
本書で学ぶ古文の基本単語	
漢文の読み方	
覚えておきたい故事成語	
旧国名・都道府県名対照図	前見返し
平安京条坊図・内裏・大内裏	巻頭口絵
春秋時代要図・戦国時代要図	巻末口絵
中国参考地図	後見返し

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
17 — 教 出	古A 302	古典文学選 古典A 代表著作者 影山輝國・室城秀之

編集の基本方針

この教科書は、古典を学ぶことによりわが国の文化・伝統を受け継ぎ、生涯にわたって古典に対する興味・関心をもち続ける読書人を育てることを願って編集したものです。古文では、『伊勢物語』『大和物語』『源氏物語』『大鏡』『平家物語』『雨月物語』といった古文の名作から物語文学を俯瞰し、漢文でも『史記』『三国志』『十八史略』を中心にして、全体を通して古典の物語を読む楽しさを味わうことができるよう構成しました。

編集上の特色

多様な形態・生徒の実態に対応するため、古文の物語文学を中心としながらさまざまなジャンルの教材も合わせて学習するよう、単元構成を工夫しました。

古文編 古文の物語文学を「歌物語」「軍記物語」「歴史物語」「作り物語」「近世小説」に大別し、より深く物語文学を読み味わうための随筆・評論など同時代や後世の作品を物語単元の後に置き、さらに、コラム「物語の歴史」を読むことにより文学史的理解も深められるように構成しました。古典文法については、各物語単元に小教材を置き、巻末「古典文法要覧」と合わせて系統的に学習できるよう配慮しました。

『一 歌物語』（『伊勢物語』『大和物語』『物語の歴史』） 『二 和歌』

『三 軍記物語』（『平家物語』『建礼門院右京太夫集』『物語の歴史』） 『四 随筆（一）』（『方丈記』『無常観』）

『五 歴史物語』（『大鏡』『物語の歴史』） 『六 随筆（二）』（『枕草子』『宮廷女房』）

『七 源氏物語』（『源氏物語』『物語の歴史』） 『八 評論』

『九 近世小説』（上田秋成『雨月物語』・石川淳『新釈雨月物語』・三島由紀夫の評論）

漢文編 漢文は、「歴史物語」を読み味わうことができるよう構成しました。また、「逸話」「唐詩」「文」といった歴史物語以外にも幅広い分野から構成し、理解と関心を深める工夫をしました。

『一 逸話』……現代にも使われる故事成語のもととなった物語を読むことで、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解することをねらいました。

『二 史記』……『史記』から項羽と劉邦の史話を選び構成しました。物語のおもしろさだけでなく、漢文を読む際に重要な句型も多く含まれた本文を読むことで漢文を読む力を高め、古典に表れた人間について考察するとともにいっそう古典を読む楽しさを味わうことができます。また、項羽と劉邦の物語を歌った杜牧の「題烏江亭」を組み合わせました。

『三 詩文』……『唐詩選』から広く読み継がれてきた詩を四首、陶潜の文を一編選び構成しました。日本の古典文学にも深く影響を与えたとされる詩文を読み、古典の世界を味わいます。

口絵・付録 古代の人々の生活や心情を具体的にイメージできるもの、また「国語総合」での古典

学習を振り返ることができるものを、口絵・付録として設けました。資料を解説するコラムをともに読むことで、よりイメージが膨らむよう意図しました。教材中の脚注では口絵・付録との関連を丁寧に示し、教科書教材の理解に益するよう配慮しました。

特に留意した点

1. 教育基本法・学校教育法への対応 主に教育基本法の第2条「教育の目標」、第3条「生涯学習の理念」および、学校教育法の第51条「高等学校における教育の目標」などをふまえました。
2. カラーユニバーサルデザインに配慮した紙面 色覚特性をふまえた、判読しやすい配色や表示の工夫により、全ての生徒が学びやすい紙面づくりに配慮しています。
3. 環境にやさしい教科書 教科書の印刷には再生紙と植物油インキを使用し、地球環境への影響を少なくするよう配慮しています。

教科書の構成

教科書の単元構成	学習指導要領	教科書の単元構成	学習指導要領
古 文 編			
一 歌物語 伊勢物語 初冠 月やあらぬ 筒井筒 目 離れせぬ雪 つひにゆく 古典の窓 成人・元服・裳着 物語の歴史1 歌物語 大和物語 姨捨山 安積山 後に会はむと 文法1 動詞の活用	(1)イエ (2)イウ	六 随筆(二) 枕草子 二月つごもり頃に 殿などのおは しまさで後 中納言参り給ひて こ の草紙、目に見え、心に思ふことを 古典の窓 宮廷女房	(1)アイ (2)ア
二 和歌 和歌の諸相(万葉集・古今和歌集・後撰和 歌集・拾遺和歌集・後拾遺和歌集・新古 今和歌集)	(1)イエ (2)アウ	七 源氏物語 光源氏と紫の上 源氏物語 光源氏の誕生 若紫との出会い 二条院に引き取られた若紫 光源 氏、須磨への退去 紫の上の嫉妬 養母紫の上 六条院の女君 紫の 上の死 追憶の日々 物語の歴史4 作り物語 文法4 敬語法	(1)アイウエ (2)ア
三 軍記物語 平家物語 忠度都落ち 先帝入水 能登殿 最期 建礼門院右京大夫集 面影ばかり 物語の歴史2 軍記物語 文法2 形容詞・形容動詞の活用	(1)アイエ (2)アウ	八 評論 無名草子 清少納言 紫式部 無名抄 閑路の落葉 静縁のこけ歌のこと 源氏物語玉の小櫛 もののあはれ	(1)アイウ (2)ウ
四 随筆(一) 方丈記 行く川の流れ 養和の飢饉 日野山 の閑居 古典の窓 無常観	(1)アイ (2)ア	九 近世小説 雨月物語 夢応の鯉魚 (上田秋成×石川淳×三島由紀夫) 言葉の伝統的な背景を調べてみよう 物語の歴史5 近世小説 文法5 紛らわしい語の識別	(1)アイエ (2)イウエ
五 歴史物語 大鏡 道真左遷 三船の才 中宮安子の嫉 妬 兼通と兼家の確執 若き日の道長 道長と隆家 鶯宿梅 物語の歴史3 歴史物語 文法3 助動詞の活用 古典の窓 天神信仰	(1)アイウエ (2)ウ		
漢 文 編			
一 逸話 季札挂剣 晏子使楚 先従隗始 俛出袴下 古典の窓 周から漢へ	(1)アイウエ (2)アイ	三 詩文 竹里館(王維) 芙蓉楼送辛渐(王昌齡) 秋浦歌(李白) 楓橋夜泊(張継) 桃花源記(陶潜)	(1)アイウエ (2)ア
二 史記 史記 鴻門の会 四面楚歌 項王の最期 題烏江亭(杜牧) 古典の窓 司馬遷と史記	(1)アイウエ (2)ア	四 三国志 関羽と張飛 諸葛孔明 赤壁の戦い 蜀相(杜甫) 星落秋風五丈原(土井晩翠) 古典の窓 『三国志』と『三国志演義』	(1)アイウエ (2)ア

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
142 右文	古A 303	説話(古今著聞集・沙石集・十訓抄・竹取物語) 随筆(徒然草・枕草子・方丈記・常山紀談・花月 草紙・蘭東事始)故事・小話 漢詩 史話 代表著作者 天野成之 安斎久美子 大谷光男 中村幸弘

I 編集の基本方針と編集上の留意点及び特色

1 編集の基本方針

- 古典の学習によって、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する心を養う。
- 生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。
- 多様な古典作品を通じて、豊かな感受性や情緒をはくぐむ。

2 編集上特に留意した点及び特色

○教材は生徒が身につけるべき教養として必要な古典作品を精選して収録し、なおかつ親しみやすく、興味・意欲が持続するものを選定した。

○生徒の興味・関心を喚起しながら、言語活動を通して、主体的に学習に取り組めるよう留意した。

○単元の構成はジャンル別に編成し、さらにジャンルによっては作品ごとに複数小単元に分割して配列するとともに、特定の文章や作品、文種や形態などについて、まとまりのあるものを中心として、適切に配列し構成した。

また古文編・漢文編各冒頭の2教材を導入部と位置づけ、生徒の興味や学習意欲の持続を図るため、古文編では親しみやすく内容の平易な「説話」教材として「母子猿」「児の飴食ひたること」を選定した。「母子猿」では現代語訳の全文を脚注の体裁で、「児の飴食ひたること」では部分訳を本文傍注の体裁で2色刷りで掲げた。漢文編においては「故事・小話」教材として「矛盾」「五十歩百歩」ともに全文の書き下し文を添えた。

○古文編においては文章の響きを味わうための朗読に適した教材を精選して配した。さらに学習・理解のための平易な解説文をおき、現代語訳や重要な文法事項は色刷りで表示するなど、無理なく学習が展開し基礎学力が確実につくよう配慮した。

古文教材では、本文末尾脚注部分に、学習上重要な古語を破線で囲んで特記した。

○漢文編においては、「参考 漢字について」や、巻末付録「漢文のきまり」のほか、「漢詩(近体詩)のきまり」を配して、入門導入の十全な手当てを施し、全体として平易な表現による注釈や問いかけを心がけるなど、生徒が無理なく学習展開できるよう留意した。

3 教育基本法や学習指導要領との関連

○教育基本法に掲げる「教育の目標」に則り、「古典A」の学習を通じて各号の目標が達成されるように教材を選定し、精選した。また学習指導要領改訂の趣旨に沿い、各指導事項・各言語活動例を網羅するよう教科書編集を行った。

II 教科書の構成

<p>【古文編】</p> <p>●説話 親子猿(古今著聞集) 児の飴食ひたること(沙石集)[言語活動教材] 文字一つの返し(十訓抄) なよ竹のかぐや姫(竹取物語)</p> <p>●随筆 徒然草 つれづれなるままに(序段) 後徳大寺大臣の(第十段) 神無月のころ(第十一段) 雪のおもしろう降りたりし朝(第三十一段) 五月五日、賀茂のくらべ馬を(第四十一段) 仁和寺にある法師(第五十二段) これも仁和寺の法師(第五十三段) 大事を思ひたたん人は(第五十九段) 延政門院(第六十二段) 名を聞くより(第七十一段) 世に語り伝ふること(第七十三段) 奥山に、猫またといふものありて(第八十九段) ある人、弓射ることを習ふに(第九十二段) 双六の上手といひし人に(第一百段) 悲田院の堯蓮上人は(第一百四十一段) 心なしと見ゆる者も(第一百四十二段) 能をつかんとする人(第一百五十段) 相模守時頼の母は(第一百八十四段) よろづの道の人(第一百八十七段) ある者、子を法師になして(第一百八十八段) 今日は、そのことをなさんと(第一百八十九段)</p>	<p>園の別当入道は(第二百三十一段) 主ある家には(第二百三十五段) 丹波に出雲といふ所あり(第二百三十六段) 八つになりし年(第二百四十三段) 枕草子 春はあけぼの(第一段) ありがたきもの(第七十二段) 五月ばかりなどに山里にありく(第二百七段) 雪のいと高う降りたるを(第二百八十段) 方丈記 ゆく河の流れ 安元の大火 近世随筆 山吹の花(常山紀談) 庭の真木(花月草紙) フルヘツヘンド(蘭東事始) 『「自分の木」の下で』(大江健三郎)</p> <p>【漢文編】</p> <p>●故事・小話 矛盾(韓非子) 五十歩百歩(孟子) 螢雪(蒙求)[参考]螢の光 孟母三遷(蒙求) 守株(韓非子)[参考]待ちぼうけ(北原白秋) 嬰逆鱗(韓非子) 管鮑之交(十八史略) 推敲(唐詩紀事) 画竜点睛(歴代名画記) 四面楚歌(史記) 先從隗始(十八史略) 朝三暮四(列子) 蛇足(戦国策) 苛政猛於虎也(礼記) 塞翁馬(淮南子) 漱石枕流(世説新語) [参考]漢字について(六書) 狐借虎威(戦国策) 水魚之交(三国志) 過猶不及(論語) 糟糠之妻(後漢書)</p>	<p>漁父利(戦国策)</p> <p>●漢詩 【絶句】 春暁(孟浩然)[参考]春あけぼの(土岐善麿) 江雪(柳宗元)涼州詞(王翰)送元二使安西(王維) 【律詩】 春望(杜甫)除夜宿石頭驛(戴叔倫) 香炉峰下新ト山居、草堂初成、偶題東壁(白居易)黃鶴樓(崔顥) 【古詩】 桃夭(作者未詳)子夜呉歌(李)</p> <p>●史話 鴻門之会(史記)</p> <p>●付録 一 動詞活用表 二 形容詞・形容動詞活用表 三 古語敬語動詞 四 古語助動詞活用表 五 古語助詞一覧表 六 内裏略図、清涼殿略図、時刻・方位・十二支 七 漢文のきまり 八 漢詩(近体詩)のきまり</p>
---	--	---

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
142 右文	古A 304	源氏物語・大鏡・評論 代表著作者 安斎久美子 大谷光男 中村幸弘 松村博司

I 編集の基本方針と編集上の留意点及び特色

1 編集の基本方針

○古典としての古文を読むことによって我が国の伝統と文化に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を涵養できるよう配慮した。

○日本文化の特質や日本文化と中国文化との関係について考えるとともに、古典という言語文化を正しく継承し、それを現代に生かす態度を育てる。

2 編集上特に留意した点及び特色

(1) 『源氏物語』について

『源氏物語』の全体像が理解されることを念願し、光源氏の生誕(桐壺)から紫の上の死(御法)まで、また「宇治十帖」の、中の君と浮舟(東屋)から末尾(夢の浮橋)まで、内容が比較的平易と思われる箇所を選定した。また各帖の初めに省略された部分の筋がわかるよう〈つなぎ〉を概説、必要に応じて各帖末尾にその後の展開を記して、教材間のつながりをはかった。

(2) 『大鏡』について

原典の構成を知る上で必要と思われる「序」からその前半を採り、世継・繁樹・若侍などの紹介を兼ねて、歴史物語叙述の形式にも触れることができるようにした。帝紀の中から「花山院の出家」を採り、列伝からは、藤原道長の人物像が浮き彫りにされているような箇所を選定した。

(3) 古典評論について

日本文化の精髓である和歌・芸能・俳諧の分野から代表的な評論を厳選した。併せて物語論・文芸論など、文芸史上からも見逃せない教材を採録すると同時に、全体を通じて評論の移り変わりが見通せるものを念頭に置いて編集した。

3 教育基本法や学習指導要領との関連

○教育基本法に掲げる「教育の目標」に則り、「古典A」の学習を通じて各号の目標が達成されるように教材を選定し、精選した。また学習指導要領改訂の趣旨に沿い、各指導事項・各言語活動例を網羅するよう教科書編集を行った。

II 教科書の構成

<p>源氏物語</p> <p>桐壺(第一帖) 光源氏の誕生 母更衣の死 賢き相人</p> <p>夕顔(第四帖) 夕顔の宿霧 深き暁 廃院の怪</p> <p>若紫(第五帖) 雀慕ふ少女</p> <p>須磨(第十二帖) 須磨の秋</p> <p>明石(第十三帖) 嵐の夜</p> <p>玉鬘(第二十二帖) 巡り合ひ</p> <p>蛸(第二十五帖) まことと偽り物語の本質</p> <p>野分(第二十八帖) 野分の六条院</p> <p>御法(第四十帖) 病める紫の上</p> <p>宇治十帖</p> <p>東屋(第五十帖) 中の君と浮舟</p> <p>浮舟(第五十一帖) 入水の決意</p> <p>夢の浮橋(第五十四帖) 小野の山里返りごと せぬ浮舟</p> <p>(参考) 長恨歌(白居易)</p> <p>大鏡</p> <p>一 雲林院にて</p> <p>二 花山院の出家</p> <p>三 筑紫の道真</p> <p>四 素腹の後</p> <p>五 宣耀殿の女御</p> <p>六 堀河殿、最後の参内</p> <p>七 隆家と道長</p> <p>八 三船の誉れ</p> <p>九 影をば踏まで、面をや踏まぬ</p> <p>『この世をば』永井路子</p> <p>一〇 競射</p> <p>一一 女院と道長</p> <p>一二 鶯宿梅</p> <p>一三 卷末</p>	<p>評論</p> <p>やまと歌は(歌論)〔古今和歌集〕</p> <p>和泉式部・赤染衛門・清少納言(人物論)〔紫式部日記〕</p> <p>いとめでたきもの(文についての論)〔無名草子〕</p> <p>紫式部と『源氏物語』(『源氏』成立論)〔無名草子〕</p> <p>深草の里(歌論)〔無名抄〕</p> <p>初心忘るべからず(能楽論)〔花鏡〕</p> <p>発端(俳論)〔笈の小文〕</p> <p>柴門の辞(俳論)〔風俗文選〕</p> <p>先師評(俳論)〔去来抄〕</p> <p>易流行(俳論)〔三冊子〕</p> <p>「もののははれ」といふこと(文芸論)〔源氏物語玉の小櫛〕</p> <p>付録</p> <p>一 動詞活用表</p> <p>二 形容詞・形容動詞活用表</p> <p>三 古語敬語動詞</p> <p>四 古語助動詞活用表</p> <p>五 古語助詞一覧表</p> <p>六 五十音図、月の異名、時刻・方位・十二支</p> <p>七 内裏略図・清涼殿略</p>
---	--

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
142 右文	古A 309	物語(竹取物語 伊勢物語 大和物語 落窪物語 源氏物語 堤中納言物語) 和歌(古今和歌集 後撰和歌集 拾遺和歌集) 随想・日記(枕草子 和泉式部日記 紫式部日記) 代表著作者 安斎久美子 大谷光男 中村幸弘

I 編集の基本方針と編集上の留意点及び特色

1 編集の基本方針

○古典の学習によって伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する心を養うとともに生涯にわたって古典に親しむ態度が育つよう編集した。

○教材化にあたっては、生徒の興味・関心を喚起しながら、言語活動を通して、生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮した。

2 編集上特に留意した点及び特色

○教材編成では平安朝文学の流れが押さえられるよう単元相互の関連を密にした。

「物語」単元では、作り物語・歌物語に加え、これら二系統の性格を合わせ持つ、「源氏物語」「落窪物語」を配した。巻頭に「竹取物語」を置くことによって、まず「物語」の面白さを味わえるよう留意した。

また物語文学に密接な関連のある「和歌」を真ん中の単元に置き、さらに「枕草子」を経て、平安時代を代表する二つの日記「和泉式部日記」「紫式部日記」を結びの単元とすることによって、平安朝文学の大まかな流れが理解できるよう意を用いた。

『伊勢物語』で「紀有常」を取り上げ、それに関連した近代の文章として俵万智『恋する伊勢物語』から紀有常を描いた「去ってゆく妻へ」を抄出して取り上げた。

3 教育基本法や学習指導要領との関連

○教育基本法に掲げる「教育の目標」に則り、「古典A」の学習を通じて各号の目標が達成されるように教材を選定し、精選した。また学習指導要領改訂の趣旨に沿い、各指導事項・各言語活動例を網羅するよう教科書編集を行った。

II 教科書の構成

<p>物語——</p> <p>竹取物語</p> <p>一 貴公子たちの求婚</p> <p>二 五人の求婚者への難題提示</p> <p>三 石上の中納言、子安貝の入手に失敗</p> <p>四 煙立ちのぼる、ふじの山</p> <p>伊勢物語</p> <p>一 紀有常（第十六段） 『恋する伊勢物語』（俵万智）</p> <p>二 小野（第八十三段）</p> <p>三 さらぬ別れ（第八十四段）</p> <p>大和物語</p> <p>一 玉くしげ（第四段）</p> <p>二 水汲む女（第二百六十六段）</p> <p>三 生田川（第四百七十七段）</p> <p>落窪物語</p> <p>一 落窪の君の生ひ立ち（巻之一）</p> <p>二 三日の夜の訪れ（巻之一）</p> <p>三 姫君に迫る典薬助（巻之二）</p> <p>四 姫君の失踪と中納言邸の大騒ぎ（巻之二）</p> <p>源氏物語</p> <p>一 玉の男皇子の誕生（第一帖、桐壺）</p> <p>二 蓬生の宿（第一帖、桐壺）</p> <p>三 物の怪の出現（第九帖、葵）</p> <p>四 野宮の秋（第十帖、賢木）</p> <p>五 住吉詣で（第十四帖、濔標）</p> <p>六 雪の日の子別れ（第十九帖、薄雲）</p> <p>七 野分の六条院（第二十八帖、野分）</p>	<p>八 病める紫の上（第四十帖、御法）</p> <p>堤中納言物語</p> <p>一 貝合はせ（貝合）</p> <p>和歌——</p> <p>古今和歌集（十首）</p> <p>後撰和歌集（五首）</p> <p>拾遺和歌集（五首）</p> <p>随想・日記——</p> <p>枕草子</p> <p>一 上に候ふ御猫は（第七段）</p> <p>二 古今の草子を御前に置かせてたまひて（第二一段）</p> <p>三 村上の上の先帝の御時に（第一七五段）</p> <p>和泉式部日記</p> <p>一 夢よりもはかなき世の中を</p> <p>紫式部日記</p> <p>一 秋のけはひ入り立つままに</p>	<p>【付録】</p> <p>一 動詞活用表</p> <p>二 形容詞・形容動詞活用用</p> <p>三 古語敬語動詞</p> <p>四 古語助動詞活用表</p> <p>五 古語助詞一覧表</p> <p>六 五十音図、月の異名、時刻・方位・十二支</p> <p>七 清涼殿・後涼殿図、牛車の図</p> <p>八 内裏略図</p> <p>九 京都付近図</p> <p>十 日本古典文学関係年表</p>
---	---	--

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
142 右文	古A 311	徒然草 説話(古今著聞集 十訓抄 宇治拾遺物語 古事談 今昔物語集) 枕草子 代表著作者 安齋久美子 大谷光男 中村幸弘 松村博司
<p>I 編集の基本方針と編集上の留意点及び特色</p> <p>1 編集の基本方針</p> <p>○古典の学習によって、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する心を養うとともに生涯にわたって古典に親しむ態度が育つよう編修した。</p> <p>○文章や作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむとともに、それらに表された人間・社会・自然などに対する思想ならびに感情を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにすることによって、国語を的確に理解し、適切に表現する能力の涵養を図れるよう編集した。</p> <p>○教材化にあたっては、生徒の興味・関心を喚起しながら、言語活動を通して、生徒が主体的に学習に取り組めるよう編集を工夫した。</p> <p>2 編集上特に留意した点及び特色</p> <p>○さまざまな人間の、さまざまな行動を記録した「説話」を12編取り上げ、人間生活や社会生活において見られる人間性や機微や真情を学ばせることによって、豊かな情操と道徳心を養えるように留意した。</p> <p>○我が国を代表する随筆文学「徒然草」「枕草子」を重点的に取り上げた。両作品とも、テーマ別に教材編成をし、学習の便を図った。</p> <p>○『宇治拾遺物語』で「猿沢の池の竜の事」を取り上げ、それに関連した近代の文章として芥川龍之介の『竜』を抄出して取り上げた。</p> <p>3 教育基本法や学習指導要領との関連</p> <p>○教育基本法に掲げる「教育の目標」に則り、「古典A」の学習を通じて各号の目標が達成されるように教材を選定し、精選した。また学習指導要領改訂の趣旨に沿い、各指導事項・各言語活動例を網羅するよう教科書編集を行った。</p>		

II 教科書の構成

<p>徒然草 序段 つれづれなるままに (序段)</p> <p>[世相奇談] 一 公世の二位のせうとに (第四五段) 二 仁和寺にある法師 (第五二段) 三 これも仁和寺の法師 (第五三段) 四 延政門院(第六二段) 五 西大寺の静然上人 (第一五二段) 六 丹波に出雲といふ所 (第二三六段)</p> <p>[芸の道] 一 亀山殿の御池に(第五一段) 二 ある人、弓射ることを習ふに (第九二段) 三 能をつかんとする人 (第一五〇段) 四 よろづの道の人 (第一八七段) 五 よき細工は(第二二九段)</p> <p>[人生随想] 一 家居のつきづきしく (第一〇段) 二 神無月のころ(第一一段) 三 久しく隔たりて(第五六段) 四 今日、そのことをなさんと (第一八九段) 五 達人の人を見る眼は (第一九四段) 六 園の別当入道は (第二三一段)</p> <p>[四季とものあはれ] 一 折節の移り変はるこそ (第一九段) 二 万の事は、月見るにこそ (第二一段) 三 雪のおもしろう降りたりし 朝(第三一段) 四 花はさかりに(第一三七段)</p>	<p>[無常の相] 一 あだし野の露(第七段) 二 五月五日、賀茂のくらべ馬 を見はべりしに(第四一段) 三 大事を思ひたたん人は (第五九段) 四 蟻のごとくに集まりて (第七四段) 五 つれづれわぶる人は (第七五段) 六 世に従はん人は (第一五五段) 七 人間の営みあへるわざを見 るに(第一六六段)</p> <p>終段 八つになりし年 (第二四三段)</p> <p>説話 古今著聞集 一 いろはの連歌(巻第五) 二 能は歌詠み(巻第五) 三 刑部卿敦兼と、その北の方 (巻第八)</p> <p>十訓抄 一 文字一つの返し(第一) 二 笛吹きの方と名器「大丸」 (第七)</p> <p>宇治拾遺物語 一 きこりの歌(巻三) 二 伴大納言応天門を焼く (巻一〇) 三 猿沢の池の竜の事(巻一一) 『竜』(芥川龍之介) 四 夢を買ふ人の事(巻一三)</p> <p>古事談 一 安養の尼と強盗(巻三)</p> <p>今昔物語集 一 受領は倒るる所に土をつか め(巻二八) 二 わが影に恐れをなす男 (巻二八)</p> <p>枕草子 [四季随想] 一 春はあけぼの(第一段)</p>	<p>二 正月一日は(第三段) 三 卯月のつごもり方に (第一一〇段) 四 九月ばかり(第一二五段) 五 五月ばかりなどに山里にあ りく(第二〇七段)</p> <p>[ものづくし] 一 すさまじきもの(第二三段) 二 過ぎにしかた恋しきもの (第二八段) 三 鳥は(第三九段) 四 あてなるもの(第四〇段) 五 ありがたきもの(第七二段)</p> <p>[宮廷生活] 一 上に候ふ御猫は(第七段) 二 中納言参りたまひて (第九八段) 三 二月つごもりごろに (第一〇二段) 四 五月ばかり、月もなういと暗 きに(第一三一一段) 五 村上の先帝の御時に (第一七五段) 六 雪のいと高う降りたるを (第二八〇段) 七 この草子</p> <p>【付録】 一 動詞活用表 二 形容詞・形容動詞活用用 三 古語敬語動詞 四 古語助動詞活用表 五 古語助詞一覧表 六 五十音図、月の異名、時刻・ 方位・十二支 七 内裏略図・清涼殿略図 八 日本古典文学関係年表</p>
--	--	---

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
143 筑摩	古A312	古典A [古文・漢文] 物語・史伝選 代表著作者 鈴木日出男

編集の基本方針と編集上の留意点および特色

学習指導要領「古典A」に掲げられた目標を効果的に達成するために、とくに以下の点に留意して編集しました。

- 1 教材のねらいと取材の範囲 古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てることができる教材を精選しました。特に「国語総合」及び「古典B」での古典学習との関連を考慮し、そこでの学習を踏まえながら発展的な学習が可能になるよう配慮しました。取材の範囲は、「古典A」の学習目標に適切であると思われ、かつ内容・表現ともに学習者にとって親しみやすく、魅力的で基本的な古典作品の文章を厳選しました。そのうえで、語句の意味・用法を理解し、古典特有の表現を味わい、古典作品に表れた思想や感情を的確に読み取り、人間・社会・自然などについて考えることができるよう配慮しました。また、表現上の特色を理解し、優れた表現に親しみながら、日本や中国の文化の特質について考えることができるよう留意しました。
- 2 構成について 本書は、古文・漢文の両分野から古典作品の文章を厳選して構成しました。「古文編」では、平安時代のいわゆる「物語」作品から、『源氏物語』『大鏡』を中心に教材を据え、さらにそれらを読み解く上で欠くことのできない近代以降の文章も含めた評論数編を加えることで構成しました。「漢文編」では、『史記』を中心教材として据え、さらに漢文を理解する上で欠かすことのできない表・伝・書など、タイプの異なる文章数編を加えることで構成しました。
- 3 本文について 学習を効果的にするために、古文では、底本の文章を適宜段落に分け、句読点を施し、また漢字を仮名に、仮名を漢字に改めるなどして、文意・語彙を理解しやすいようにしました。さらに、会話の部分は原則として現代の文章形式と同じようにしました。漢文については訓点と送り仮名を施しました。字体は原則として常用漢字体を用い、学習者に過度の負担がかからないよう配慮しました。
- 4 注・手引きについて 必要に応じて注を記しました。また、作品の理解を助けるための「問」を設け、古文では「重要語」を掲出しました。また、作品の理解・鑑賞を深め、古典文法や漢文句法についても習得できるように、手引きとしての「読解」「表現」を各作品の末尾に掲げました。
- 5 解説・付録・その他について 各作品の末尾に、作者・作品などについての解説を加えました。また、読解・鑑賞の一助として、登場人物に関する系図、あるいは図版・地図を適当な箇所に掲げました。

<p>古文編</p> <p>【源氏物語】</p> <p>くれまどふ心の闇（桐壺）</p> <p>かかやく日の宮（桐壺）</p> <p>廃院の怪（夕顔）</p> <p>車争ひ（葵）</p> <p>嵐の夜（明石）</p> <p>夢の心地（玉鬘）</p> <p>鶯の初音（初音）</p> <p>花の蔭（若菜上）</p> <p>罪の子（柏木）</p> <p>形見の文殻（幻）</p> <p>霧の中のかいま見（橋姫）</p> <p>髪の香（総角）</p> <p>宇治の川音（浮舟）</p> <p>夢の世（夢浮橋）</p> <p>『源氏物語』の虚構（鈴木日出男）</p> <p>【大鏡】</p> <p>時平と道真（時平）</p> <p>宣耀殿の女御（師尹）</p> <p>中宮安子の嫉妬（師輔）</p> <p>最後の除目（兼通）</p> <p>道長と伊周（道隆）</p> <p>隆家と道長（道隆）</p> <p>鶯宿梅（道長下）</p> <p>【評論】</p> <p>誹諧歌・連歌（俊頼髓脳）</p> <p>おほかた歌の姿は（後鳥羽院御口伝）</p> <p>因果の花（風姿花伝）</p> <p>等類の事（三冊子）</p> <p>切れ字の事（三冊子）</p> <p>物語に言へるよき悪しき(源氏物語玉の小櫛)</p>	<p>もののあはれ論（源氏物語玉の小櫛）</p> <p>漢文編</p> <p>【史記】</p> <p>陶朱公范蠡（越王句践世家）</p> <p>莊子（老子韓非列伝）</p> <p>韓非子（老子韓非列伝）</p> <p>刎頸之交（廉頗藺相如列伝）</p> <p>相聚謀反（留侯世家）</p> <p>【文章】</p> <p>前出師表（古文真宝・後集） 諸葛亮</p> <p>五柳先生伝（陶淵明集） 陶淵明</p> <p>与孟東野書（韓昌黎集） 韓愈</p> <p>鈇鋤潭記（唐宋八家文読本） 柳宗元</p> <p>傷仲永（臨川先生文集） 王安石</p> <p>付録</p> <p>古典常識 装束・調度</p> <p>曆法</p> <p>古典文法要覧</p> <p>『源氏物語』年立</p> <p>皇室・藤原氏略系図</p>
---	---